（7） ピーマン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
1 苗立枯病 *Rhizoctonia solani*	1.床土は排水のよい無病のものを使う。 2.苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3.換気を行い、床土を乾かす。	播種前	14	リゾレックス粉剤
		播種前（種子粉衣）	M4	オーソサイド水和剤８０
		播種時（種子粉衣又は土壌灌注）	14	リゾレックス水和剤
		は種後から２～３葉期まで	M4	オーソサイド水和剤８０
2 疫病 *Phytophthora capsici*	1.高畝にして排水を図る。 2.ポリマルチ、敷わらなどを行い、雨のはね返りを防ぐ。 3.品種間差異がある。 4.前年、発病畑で使用した資材は消毒する。 5.連作を避ける。 6.カボチャ､キュウリ､トマト、ナス等の疫病菌と同種なので、これらの作物との輪作は避ける。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－ －	クロールピクリン クロルピクリン錠剤
		開花期頃から	4 11･4	リドミル粒剤２ （混）ユニフォーム粒剤
		発病前から	21 21 40 11･M5 21･M5	ライメイフロアブル ランマンフロアブル レーバスフロアブル (混)アミスターオプティフロアブル （混）ドーシャスフロアブル
3 灰色かび病 *Botrytis cinerea*	1.過湿にならないように換気を良好にする。 2.病葉、被害果を除去して埋める。 3.ポリマルチを行う。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.発病前から予防的に散布する。 2.アフェットフロアブル、アミスター２０フロアブルは浸透性を高める効果のある展着剤の加用を避ける。	開花期前から	2 2 7 7 7 11 12 7･M5 11･M5	ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 カンタスドライフロアブル アフェットフロアブル カナメフロアブル アミスター２０フロアブル セイビアーフロアブル２０ （混）ベジセイバー (混)アミスターオプティフロアブル
		ハウス内防除（くん煙）	2 2	ロブラールくん煙剤 スミレックスくん煙顆粒
4 菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*	1.過湿にならないように換気を良好にする。 2.病葉、被害果を除去して埋める。 3.連作を避ける。 4.夏期に湛水可能な圃場は、高温時に20日以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 5.ポリマルチを行う。	発病前から	2 2 11	ロブラール水和剤 スミレックス水和剤 スクレアフロアブル
		ハウス内防除（くん煙）	2	ロブラールくん煙剤
5 青枯病 *Ralstonia solanacearum*	1.無病地を選ぶ。 2.ナス科作物の連作を避ける。 3.圃場の排水を良好にする。 4.発病株はできるだけ早く抜き取り、圃場外で処分する。 5.栽培管理などの作業中に根を根を傷つけないように注意する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.土壌消毒方法はⅢ－14. 土壌病害虫の防除の項参照。	土壌消毒	－ － － －･－	クロールピクリン クロルピクリン錠剤 クロピクテープ （混）ソイリーン
6 斑点細菌病 *Xanthomonas vesicatoria* *X. euvesicatoria*	1.排水を良好にする。 2.肥培管理を良好にする。 3.無病種子を用いて無病土に栽培する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.本病対象にカスミンボルドーで防除を実施しているところでは、疫病、軟腐病の発生が少ない。	発病初期	24･M1 24･M1	（混）カスミンボルドー （混）カッパーシン水和剤

ピーマン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
7 うどんこ病 *Leveillula taurica*	1.密植を避け、風通し、日当りを良好にする。 2.摘除した病葉及び収穫後の植物残さは圃場に放置せず、早めに処分する。 3.ジーファイン水和剤は斑点病にも登録がある。	発病初期	1	ベンレート水和剤
			3	トリフミン水和剤
			3	ルビゲン水和剤
			3	サプロール乳剤
			7	アフェットフロアブル
			7	カナメフロアブル
			19	ポリオキシンＡＬ乳剤
			39	ハチハチ乳剤
			M5	ダコニール１０００
			M10	モレスタン水和剤
			M10	パルミノ
			ー	サンヨール
			U6･3	(混)パンチョＴＦ顆粒水和剤
			7･M5	(混)ベジセイバー
			NC･M1	(混)ジーファイン水和剤
			10･1	(混)ニマイバー水和剤
			M2･M1	(混)クリーンワイドフロアブル
		ハウス内防除（くん煙）	3	トリフミンジェット
8 白絹病 *Sclerotium rolfsii*	1.過湿にならないように換気を良好にする。 2.病葉、被害果を除去して埋める。 3.連作を避ける。 4.夏期に湛水可能な圃場は、高温時に20日以上湛水すると、菌核が死滅するので有効である。 5.ポリマルチを行う。 6.一旦発生すると、土壌に菌核が残り、数年間残存する。輪作に当たっては､ナス科以外にウリ科、アブラナ科、マメ科などを侵す(多犯性)ので、作物選定に注意する。	発病前から（株元灌注）	7	カナメフロアブル
9 尻腐症 （石灰欠乏症）	1.土の乾きすぎ、湿りすぎを防ぐ。 2.窒素質肥料を過用しないようにする。 3.石灰を十分に施用しておく。 4.発生初期から以下の方法で、葉面散布する。 ・塩化石灰200倍またはスイカル400倍に展着剤を加えて散布する。 ・アグリメイト500～600倍を各花房の開花初期ごとに花房、新葉、生長点によくかかるように葉面散布する。			
10 アブラムシ類 （モザイク病 ＴＭＶ ＣＭＶ）	1.周辺雑草を防除する。 2.飛び込み軽減のため、育苗床は防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 3.周囲にシルバーテープをはる。 4.シルバーマルチをする。 5.発病株は早めに処分する。 6.ＣＭＶはアブラムシ伝染する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤー水和剤、顆粒水和剤、フロアブルは、施設栽培での使用に限る。	育苗期	4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スターク粒剤
		育苗期後半	1A	ガゼット粒剤
			4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ダントツ粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		定植前日～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		定植時	1A	ガゼット粒剤
			4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スターク粒剤
			4A	アクタラ粒剤５
		発生初期	3A	アディオン乳剤
			3A	アグロスリン水和剤
			3A	アグロスリン乳剤
			3A	アーデント水和剤
			3A	トレボン乳剤
			4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	アドマイヤーフロアブル
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ベストガード水溶剤

ピーマン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
	●発生初期 1.ハウスではＴＭＶの発生が多く、ビニール除去後はＣＭＶの発生が多くなる。	発生初期	4A	アクタラ顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	ダントツ粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	バリアード顆粒水和剤
			4C	トランスフォームフロアブル
			9B	コルト顆粒水和剤
			29	ウララＤＦ
		ハウス内防除（くん煙）	4A	モスピランジェット
11 ミナミキイロアザミウマ	1.苗で本圃に持ちこまない。 2.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 3.シルバーマルチをする。 4.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明フィルムで全面被覆し（夏場の晴天日であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。 5.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。 6.周辺雑草及びハウス内の雑草処理を徹底する。 7.被害植物や雑草は除去後、土中に埋めるか、ビニール等で密封し、半月程度放置する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.アドマイヤ―水和剤、顆粒水和剤は、施設栽培での使用に限る。	育苗期	1A	バイデートＬ粒剤
		育苗期後半	1A	ガゼット粒剤
		育苗期後半～定植当日	28	ベリマークＳＣ
		定植時	1A	ガゼット粒剤
			4A	アドマイヤー１粒剤
			4A	ベストガード粒剤
			4A	アルバリン粒剤
			4A	スタークル粒剤
			4A	アクタラ粒剤５
		発生初期	4A	アドマイヤー水和剤
			4A	アドマイヤー顆粒水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			4A	ダントツ水溶剤
			4A	アルバリン顆粒水溶剤
			4A	スタークル顆粒水溶剤
			4A	アクタラ顆粒水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナＳＣ
			15	アタブロン乳剤
			13	コテツフロアブル
			21A	ハチハチ乳剤
			UN	プレオフロアブル
			5･-	（混）ダブルシューターＳＥ
12 ミカンキイロアザミウマ	1.苗で本圃に持ちこまない。 2.シルバーマルチをする。 3.侵入防止対策のとれているハウスでは、青色粘着トラップを吊るすことにより、密度を下げることができる。 4.ハウス栽培では収穫終了直後に圃場の地表面を透明ファイルムにより全面被覆し、夏場の晴天時であれば１日処理が目安）、地温を50℃以上に上げると、土中の蛹を死滅させることができる。	発生初期	3A	アーデント水和剤
			4A	モスピラン顆粒水溶剤
			5	スピノエース顆粒水和剤
			5	ディアナＳＣ
			13	コテツフロアブル
			21A	ハチハチ乳剤
			5･-	（混）ダブルシューターＳＥ
13 ハスモンヨトウ	1.卵塊、幼虫集団を見つけたら摘除する。 2.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、圃場を良く見回り、若齢期に防除する。 2.防除した後に成虫が飛来、産卵するので、常に幼虫の発生に注意する。	発生初期（若齢幼虫期）	5	ディアナＳＣ
			6	アニキ乳剤
			15	アタブロン乳剤
			18	ファルコンフロアブル
			6･15	(混)アファームエクセラ顆粒水和剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する

ピーマン

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬剤防除 防除時期	RACコード	薬剤
14 ネキリムシ	1.植付け予定圃場では除草に努める。 2.育苗床は、雑草の繁茂していないところで設ける。	定植直後	1B 3A	ダイアジノン粒剤３ ガードベイトA
15 タバコガ オオタバコガ	1.飛び込み軽減のため、ハウス開口部を防虫ネット（４㎜目合以下）で被覆する。 2.幼虫は見つけしだい捕殺する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** 1.プレオフロアブルはタバコガ類に登録がある。 2.アディオン乳剤、アグロスリン水和剤はタバコガに登録がある。他の剤はオオタバコガに登録がある。 3.本虫対象にコテツフロアブルで防除を実施しているところでは、チャノホコリダニの発生が少ない。	**発生初期** （６月中旬 ～８月下旬）	3A 3A 5 5 6 6 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 13 15 15 18 18 22A 22A 28 28 UN 6･15 5･-	アディオン乳剤 アグロスリン水和剤 スピノエース顆粒水和剤 ディアナSC アファーム乳剤 アニキ乳剤 トアローフロアブルCT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF フローバックDF チューンアップ顆粒水和剤 サブリナフロアブル コテツフロアブル カスケード乳剤 アタブロン乳剤 ファルコンフロアブル マトリックフロアブル トルネードエースDF ファイントリムDF プレバソンフロアブル５ フェニックス顆粒水和剤 プレオフロアブル (混)アファームエクセラ顆粒水和剤 (混)ダブルシューターSE
16 カメムシ類	1.飛来防止のため、ハウス開口部を防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆する。	発生初期	1B 3A 4A 4A	マラソン粉剤３ アディオン乳剤 ダントツ水溶剤 スタークル顆粒水溶剤
17 コナジラミ類	1.育苗床は防虫ネット（１㎜目合以下）で被覆し、飛来を軽減する。 **〈薬剤使用の特記事項〉** ●発生初期 1.本虫対象にサンマイトフロアブルで防除を実施しているところでは、チャノホコリダニの発生が少ない。 2.ファインセーブフロアブルはタバココナジラミ類（シルバーリーフコナジラミを含む）での登録である。	育苗期	4A 4A 4A	ベストガード粒剤 アルバリン粒剤 スタークル粒剤
		育苗期後半 ～定植当日	28 4A･28	ベリマークSC (混)アベイル粒剤
		定植前日 ～定植当日	4A	モスピラン粒剤
		発生初期	4A 4A 4A 4C 5 6 6 9B 21A 21A 34 5･-	モスピラン顆粒水溶剤 ダントツ水溶剤 ベストガード水溶剤 トランスフォームフロアブル ディアナSC コロマイト乳剤 アニキ乳剤 コルト顆粒水和剤 ハチハチ乳剤 サンマイトフロアブル ファインセーブフロアブル (混)ダブルシューターSE
18 ハダニ類	1.圃場内や周辺の雑草防除を徹底する。 2.作物残さを放置すれば、ハダニの増殖源となるので、早めに処分する。 3.収穫終了後、夏期ハウスを密封して、１～２週間太陽熱で残さを処理する。	発生初期	6 13 10A 20B 20D 21A 25A 25A 5･-	コロマイト乳剤 コテツフロアブル ニッソラン水和剤 カネマイトフロアブル マイトコーネフロアブル ダニトロンフロアブル スターマイトフロアブル ダニサラバフロアブル (混)ダブルシューターSE
19 ネコブセンチュウ	1.水田への転換可能なところでは、１～２年畑を水田化する。 2.苗からの持ち込みを防止するため、センチュウ類や病害のおおそれのない用土を使用する。	定植前	1B	ネマトリンエース粒剤

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する